

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5 年 1 月 31 日

公表:令和 5 年 2 月 3 日

事業所名 チャイルドウィッシュ末広

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広い分ケガやトラブルがないようにしています。	死角になるところがあるので、スタッフの配置場所などを細かくしていきます。
	2 職員の配置数は適切である	○		子ども達が一人にならないようにしています。	遊びの中で、小さい子がいることもあるので、ケガには十分に注意していきます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差がなく、躓きやすい子にも安心して遊べられるようにしています。	段差などが無い分、遊具などを使い、足に刺激を入れることで感覚を入れています。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的にミーティングをしたり、日報などでその日の出来事などを共有して	その日のあったことを話し合う時間を設けて改善できるようにしています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		1人1人のお声に耳を傾けて、安心していただけるようにしています。	改善の余地のある議題を話し合い改善できるようにしていきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		細かく記載している、安心してもらえるようにしています。	評価表を見て安心してもらえるようにしていきます。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		訪問や、相談員の方などに来てもらい見てもらっています。	来ていただいた際に、聞いたことや内容をすぐ行動に移せられるようにしていきます。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に研修に参加できるように時間を作っています。	研修で聞いたことなどをフィードバックしていき、再度確認できるようにしていきます。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日ごろから保護者と共有していき、課題に取り組められるようにしています。	子どもや保護者の方とのお話の中で一番の課題から取り組んでいけるように計画していきます。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		気になる点や、把握しておきたいことを細かく聞いています。	少しずつ成長していく中でその都度子どもの把握をしていきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		1人で考えずにスタッフ一人一人の意見を尊重して	子どもに着くスタッフが固定化されないようにしていきます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日ごころを開いて、季節に合った活動プログラムをしています。	同じことを繰り返さないように、視点をずらして違った活動が出来るようにしていきます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇など、時間が長い時には、お昼からイベントなどをやるようにしています。	無理に参加させることなく、宿題をやりたい子、様子を見たい子など子どもにあった支援をしています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どものニーズに合わせて作成しています。	子どもの特徴に合わせた計画を作成していき、保護者のニーズに添えるようにしていきます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		送迎前や、支援前に社員がパートさんなどに共有する時間を設けて	違うことで夢中になり見落としてしまうことがあるので、スタッフ一人一人が全体を把握できるようにしていきます。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎から帰ってきたときに時間を設け、その日の様子などの振り返り	時間がない時には、一人のスタッフにだけ共有していき、そのスタッフが他のスタッフに共有するようにしていきます。
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録、日報、ミーティング日誌に残しつつでも確認できるようにしています。	気になったことなどを話し合う時間を設けていき、改善していきます。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		送迎の際などに、保護者から話を聞くなどしていき、日ごろからその時に合った支援をしています。	保護者だけでなく、関係機関とも連携を図り改善していきます。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		その時に合った支援をしています。	出来るだけ子ども全員の満足の出来る支援をしていきます。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	担当者会議に参加する前に、スタッフ間で話し合いをし参加しています。	日ごろから保護者や関係機関と交流を図りお話が出来るようにしていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校の行事予定を保護者からいただき、コピーしいつでも確認が出来るようにして連携が取れるように事前に連絡をさせていただいてます。	最後に、利用の前日に時間などを確認していき、漏れがないかの確認をしていきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	電話や直接問い共有できる環境を整えています。	まだ、医療ケアの必要な子がいないので、今後入ってきた際に対応できるようにしていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	まだ、その場面になったことがありません。	その後の経過を相談員さんや親御さん学校などとこまめに共有していきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	放デイ連絡会に参加し、研修を受けられるようにしています。	今後、その場面に出くわした際に、提供できるように、資料などにまとめておきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	活動は出来ていませんが、公園などに行き、関わるきっかけを作っています。	他の関係機関とも連携が取れるように、連絡などをしていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	中々参加することが出来ていません	時間や児童クラブなどの関係機関と交流を持ち、活動できるようにしていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	連絡帳や送迎時、LINEなどでいつでも共有が出来るようにしています。	参加できるよう、時間を作っていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時などに、子どものことだけでなく、ご自宅での様子も聞くようにしています。	お話が必要な時には、時間を作っていき、話し合いのできる場を作っていきます。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	契約の際に細かくお伝えしています。	今後のことについても、お話をし、どうすればいいのかなど一緒に考えていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	送迎時やLINE、電話などで、相談がすぐできるようにしています。	問題があれば、その都度お声がけさせていただき、お伝えしていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	頻繁には出来ませんが、学年が上がる時期や、就職などの時期に合わせて開催しています。	保護者の悩みに寄り添い、お子さんと保護者の納得のいく助言や支援をしていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	その日のことはその日に対応しています。	中々、時間が合わない保護者の為にも開催する頻度を増やしていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	月ごとの行事予定を、前の月にお渡ししています。	対応できない時は、いつまでに対応するのかを伝えていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	鍵付きのロッカーに保管しています。	同じ事の繰り返しにならないように気を付けていきます。
	35	個人情報に十分注意している	○	子どもや保護者に合った伝え方をしています。	あまり人目のつかない場所に片付け、全てあるかどうかすぐに確認できるようにしていきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	季節のイベントで参加していただいています。	伝わりにくい場合は、スタッフ同士で話し合い、共通認識していき伝えていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		近くの場所だけでも関わりを持ち、子どもに社会性が身に着けられるようにしていきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	契約時や、避難訓練の時などに説明しています。	子どもにも伝わりやすい内容でスムーズに取り組みられるようにしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	同じ曜日にならず、全て子どもが経験できるようにし	保護者参加型訓練を今後できればと思っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	研修会に参加できるようにしています。	言葉の暴力もないように声掛けを気を付けていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	製造ラインなども確認しておやつなど提供しています。	ご飯イベントの時など、イベントの前に保護者にお話をしてスタッフ全員が把握できるようにしていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	小さなことも作成するようにしています。	支援前のミーティングでスタッフに声を掛けていき、意識できるようにしていきます。